

和歌山 海プロジェクト



海洋教育の推進

和歌山県の人々は昔から「海」と深く関わりをもち、海から多くの恩恵を受けてきました。海は和歌山の人々の生活に欠かすことのできないものです。

県内の学校では、地域の自然や文化、歴史、偉人などについて学ぶ「ふるさと教育」に取り組んでいます。その一環として、県では「海」に親しみ、「海」を知り、「海」を守り、「海」を利用する「海洋教育」を推進しています。

本年度から文部科学省の研究指定を受けている那智勝浦町立下里小学校、宇久井中学校、串本町立橋杭小学校では、これまで、ウミガメの保護活動や漁業体験、海浜清掃活動、砂浜での造形遊び、磯辺の生き物観察等、多くのことに取り組んできており、これらの取り組みを生かしながら、更なる海洋教育の充実を図っています。

和歌山県では、海を通じて、ふるさとの素晴らしさに気づき、ふるさとを愛し守り育てる意欲や態度の育成、また、海洋環境の保全を図ることができる人材の育成をめざし、海洋教育の一層の推進を図っていきます。



ヨット体験会を実施しました!

全国高等学校総合体育大会のヨット競技が、今年度から10年間にわたり、和歌山セーリングセンターで開催されることに伴い、「和歌山・海プロジェクト」ヨット体験会を実施しました。

海洋県和歌山の自然環境や和歌山セーリングセンターの充実した施設・設備を活用し、子どもたちの運動機会の拡大を図るとともに、ヨット競技への関心を高めることがねらいです。

参加者の声



風が気持ちいい!



思ったより簡単かも!



友達と競争だ!!

今年度の実施校

平成27年6月19日(金)	広川町立津木小学校
6月22日(月)	紀の川市立打田中学校仙溪分校
6月25日(木)	和歌山市立山口小学校
6月30日(火)	有田市立港小学校
7月 1日(水)	県立和歌山ろう学校
7月 3日(金)	海南市立大野小学校
7月 8日(水)	和歌山市立四箇郷北小学校
7月 9日(木)	和歌山大学教育学部附属小学校

公立中学校3年生が英語検定にチャレンジ!

英語力の向上をめざす

和歌山県では、平成23年度から国際人育成プロジェクトに取り組み、外国の人々と対話できる英語力を身につけた、広く世界で活躍できる人材の育成をめざしています。本年度から新たに、公立中学校の3年生を対象に英語検定を学習指導に活用することとしました。

この取り組みにより、生徒が、英語検定の受験をめざして意欲的に英語学習に取り組むとともに、その結果をもとに、各学校が授業改善を進めることで、生徒一人一人の英語力の向上を図っていきます。

なお、一次試験は、各中学校において、10月9日(金)に行われます。

和歌山県教育委員会ホームページの国際人育成プロジェクト内に実施要領を掲載しています。

※英語検定とは、公益財団法人「日本英語検定協会」が学習指導要領の内容に基づき作成し、実施する「実用英語技能検定」のことです。協会のホームページに、各級の目安(レベル)や過去の問題などが掲載されていますので、参考にしてください。

(<https://www.eiken.or.jp/eiken/>)



公立中学校3年生の保護者の皆様へのご願い ～二次試験[11月8日(日)]の対応を～

英語検定の受験級は、中学校卒業程度の内容を問う3級を基本としています。3級以上は一次試験と二次試験があり、各中学校で実施する一次試験に合格すると、日本英語検定協会が指定する県内の会場で二次試験(英語による面接)があります。英語検定の受験料は県で負担しますが、二次試験については、当日の会場までの交通費等をご負担いただき、保護者の責任のもと受験させていただくこととなります。保護者の皆様には大変ご負担をおかけしますが、本事業の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

きのくに 教育めぐり



今回は 高野町

教育長挨拶

平成27年、高野山は弘法大師空海による密教の道場建設から1200年を迎え、大師が残した大いなる遺徳への感謝を込めた絢爛壮麗な法会が執り行われました。

期間中、昭和9年に金堂再建とともに仏師高村光雲によって造られ、秘仏となって厨子内に安置された薬師如来が開帳されたり、三大秘法「諸尊仏龕」(弘法大師以前の七祖が密教正系の証として受け継いだもの)、「飛行三鈷杵」(密教の祖で、龍猛菩薩から受け継がれた密教仏具)、「聲磬指帰」(仏教を志した若き日の出家宣言書)が展示されました。それらを地元の児童・生徒にも見せることができ、普段は身近にあるからこそ感じていないかもしれない「高野山」の魅力を気づかせるよい機会となりました。50日間、高野山を訪れてくれた人は60万人、日によっては町の人口の10倍とも20倍ともなった山の賑わいを、子どもたちはどのように感じたことでしょうか?

このように、高野町教育委員会では、郷土の自然や文化を愛する心を養い、地域の人々とのふれあいを深めること、豊かな心と社会性を育てること、自ら学ぶ意欲と考える力を育成することなどを基本方針とし、社会の変化を把握し、課題に向き合うたくましい力を持った児童生徒の育成をめざしています。

高野町教育委員会 教育長 角濱 正和

交流

高野町でも人口減少、過疎化・少子化が進んでおり、小規模校及び過小規模校しかありません。そのため、各学校では少人数のメリットを生かした教育、少人数がハンデとにならない教育を実践しています。そのための工夫の一つとして「交流」をキーワードにしています。

地域との交流

ちまきづくり・高野町立富貴小・中学校



高野町立富貴小・中学校では、へき地小規模校の特性を生かし、地域や家庭と連携し「ふるさとふれあい学習」を実践しています。学習の中心となるのが「ちまきづくり」です。

今年も6月3日に「ちまきづくり」を行いました。この地域では昔から、田植えが終わった「田植え休み」(旧の端午の節句)に、どの家庭でもちまきを作って祝ったようです。また、若嫁さんはちまきをみやげに里帰りするならわしもありました。しかし最近では、「ちまきづくり」をする家庭も少なくなってきました。そこで、ふるさとに伝わる良き伝統を体験し、地域に暮らす人々の思いを知り、生活様式や考え方の変遷を知ることで、自分たちの生活をふり返し、ものの見方や考え方、人間としての生き方を学びきっかけになればと考え、27年前に始めた活動です。

ふるさとの人々に支えられ、保護者や地域の方々にご指導いただき、「ふるさとふれあい学習」として充実感を味わえる体験となっています。できあがった「ちまき」は、ふれあい手紙を添えて、ひとり住まいのお年寄りの方などにお届けしています。どのお宅からもあたたかいお礼の言葉をいただき、何とも言い表すことのできない喜びを「ちまき」とともに味わっています。

他校との交流

和歌山大学教育学部附属小学校との交流 …高野町立高野山小学校



高野町立高野山小学校のような、少人数の学校では、人間関係が固定化されやすく、コミュニケーション力不足等が懸念されることから、平成10年から和歌山大学教育学部附属小学校との交流を実施し、他校の児童とのコミュニケーションを通して対人関係の大切さを学ばせています。

毎年6月に、附属小学校の4年生が高野山へ林間学校に訪れます。その機会に高野山小学校4年生がグループに分かれ、高野山の歴史や文化を説明しながら山上を巡ります。11月には附属小学校の児童に和歌山市内を案内してもらい、給食も一緒に食べながら交流を深めています。

交流学習では、普段生活している相手とのつきあい方とは違ったことが求められます。自分の伝えたいことを伝えるために、よい意味で相手に合わせてコミュニケーションする内容を吟味したり、方法を工夫したりする必要があります。



それらの重要性に気づく機会を得たことは、子どもたちにとってよい経験となり、教職員は、自分の考えを相手に伝えられる児童が増えてきていることを実感しています。